ASIA WOMEN LEADERS FORUM
AWLF

INTERVIEW

日本とスリランカをつなぐ

駐日スリランカ大使夫人　ペレラ雅子　氏

2022年10月下旬に、駐日スリランカ特命全権大使として着任されたE. Rodney M. Perera 氏。着任2日目から大使をサポートする即戦力として様々な会合に出席し忙しい日々を送る夫人のペレラ雅子さんにお話を伺った。

インタビュー日：2023年1月30日

Q1　スリランカとの出会いについて

実家がお寺なんですね。父は群馬県桐生市にあるお寺の住職で、仏教を通して国際交流がある家でしたので、私が小さい頃からスリランカとはご縁がありました。跡取り娘として育てられましたので、大学を卒業したら帰る予定でした。でも、もう少しだけ東京で経験を積みたいと思い、**1990年3月にスリランカ大使館に少しの間、就職**することになりました。

3月の初めに、26日から仕事に来てくださいと大使館から連絡が入りました。でも、**その日は実は私のお誕生日**なので、“お誕生日から働きたくないな”と思いまし

た。でも、やはり“いや”とは言えなくて、3月26日にスリランカ大使館に行きました。
その日は、大使館の皆さんをご紹介いただいたあと、私が自分のデスクにいると、当時二等書記官だったペレラさんに、“4時になったら下にあるダイニングルームに来て欲しい”と言われました。時間になって、ダイニングルームに行ってみると、**なんと私のためにサプライズのバースデーパーティを開いてくれたのです。**
私は全く予想もしていなかったので、とてもびっくりしましたし、**嬉しかったです。**

それを計画してくれたうちの一人がペレラさん、私の主人でした。

E. ロドニー・M・ペレラ駐日スリランカ特命全権大使は、1988年にスリランカ外務省に入省し、1989年に二等書記官として駐日スリランカ大使館での仕事を始めた。その後、スリランカに一度もどり、ニューヨークに移動。ニューヨークの国連スリランカ政府代表部で一等書記官として活躍。そして、次のケニアではスリランカ大使代理として、約一年半駐在。その後、イタリア、ノルウェー、ベルギー、ルクセンブルク、EU(欧州連合）のスリランカ大使を歴任。ベルギーからワシントンDCに移動して、駐アメリカ合衆国スリランカ大使としての仕事を勤め上げた。**2022年の10月の末に駐日スリランカ大使としての仕事を始めた。**

Q2　特に思い出に残っていること、お聞かせいただけますか？

私の今までの人生、かなりインパクトのあるものだったし色々あったけれど、個人的に**今ふと思いつくのは、本**のことかな。

“Happiness”との出会い

私はお寺で育ちましたから、ずっと仏教に包まれていましたが、それでも今ひとつ“仏教”が私の中に吸収されていなかった感じがします。でも、日本から出て各国を回っているうちに、自分の中で**何かが欠けている感じ**がしました。そして、それが何なのだろうと、いろいろと本を読みました。別に、何かに不満を感じていたわけではないのだけれど。

イタリアに駐在していたときは、主人と息子が朝、家を出た後に、「インターナショナル　ヘラルド　トリビューン」という英字新聞を読むのが私の日課でした。

ある日、**新刊の紹介欄で、“Happiness”という本を目にしました。**著者は、Matthieu Ricard（マチウ リカール）というネパールの僧院にいらっしゃるフランスの僧侶の方で、ダライ・ラマ14世とお仕事をされたり、また、彼自身ライターでもあり、写真家でもあります。早速、その当時ローマで一軒しかなかった英語の本を取り扱う本屋さんに電話をして、本を注文しました。そして、約2週間後に“Happiness”は私の手元に届きました。

読み始めると、**内容に惹かれて、読むのをやめるのが難しいほど面白かった**です。それを読み終わった時に、**“あっ”**と思いました。“Happiness”は仏教徒でなくても読める本ですが、やはり根底に流れているのは、仏教の思想でした。この時に、**私の中でかけていた事が“仏教”であった事に気づきました。**

その後、**仏教をもう一度学ぶ**ことにしました。そして、私にとっての仏教はやはり、一緒に育った浄土真宗の教えです。イタリアからスリランカに戻った頃から3年間かけて、通信教育で浄土真宗の僧侶になるためのコースを勉強しました。そして、2012年の5月に京都西山別院での11日間の浄土真宗本願寺派の得度修礼を終えて、**私は僧侶となりました**。

世界中を回って、すごく遠回りをしたけれど、**私の原点に戻った**感じですね。

“日本を客観的に見て思う事”

良いところもたくさんありますよね。
でも、まだまだ集団に比べて**個人が弱いかな**。だから、自己を主張し過ぎれば、また目立ち過ぎれば、出る杭は打たれるという風潮がまだあるようです。
その点は、堅苦しさを感じます。**皆違って当たり前**なのに。

教育や学び方は、もちろん国によっても、学校によっても変わってきます。でもこれからは、ただ暗記して覚えるだけの勉強法では難しいと思います。**人生は、自分で問題課題を見つけて、その解決を見出していくことが求められますよね**。そして、皆さんそれぞれが違う環境で違う人生を送っている。本当にいろいろです。

日本である保育園に行った時のこと。**その保育園では**、お庭にアスレチックのような遊具が置いてあります。でも、**子ども一人ひとりがいろいろと自分たちの頭を使ってチャレンジしないと自分の行きたい場所に行けない**。例えば、上に行きたいけれど、階段がないから、他の回り道を自分で考えないといけない。その遊具を見たときに、保育園の先生に聞いてみました。

この遊具で自分の子どもを遊ばせることについて反対のお母さんはいませんか？
と。
実際に、心配されるお母さんは多いようですね。でもその保育園では、**子どもたちに自分で考える力を養いたいから、お母さんがたにもそう説明されているようです。**

“生きること”に関しての想いの違い

日本では、“人生を楽しむために生きている。”という人が少なく感じます。
仕事をしていて忙しい。いつもいつも働いている。もちろん、生きていくためにはお金は必要です。そして、お金を得るためには、働かなければいけない。でも、人生を生きる目的が生活をすることになってしまっているような気がします。

いろいろな国に行けば、そのスタンスも変わってきます。**人生を楽しむために生きている人たちもいます。**そのような人たちは、長いバカンスをとって楽しみます。でも、日本だと、一週間のお休みを取るのも難しいとお友達に聞いています。

国が変わればいろいろと変わってくることを、もっとたくさんの人に知ってほしいですね。

Q3　特に思い出に残っていること、お聞かせいただけますか？

主人は、駐アメリカ合衆国スリランカ大使の仕事を終えた2020年の年末をもって、**32年間の外交官人生に幕を閉じました。**定年より2年ほど早くスリランカ外務省より退官しました。

それは、当時のスリランカ大統領のやり方に同意できなかったこと、そして、そのような状況では、スリランカの代表として働くことが難しかったこと。また、さらには、スリランカが大変な状況に陥るであろうことを感じていたからです。そして実際に、昨年、スリランカは今まで経験したことのないようなとても厳しい状況となりました。

それに伴って、2022年7月20日に大統領選挙が行われて、ラニル ウィクラマシンハ氏が新大統領に就任しました。その同日、**大統領から主人にもう一度スリランカのために働いてほしいと連絡**が入りました。主人は、その件について、3日ほど一人で考えたようです。

その後、私と息子に大統領から連絡があったことと、自分がスリランカ大使として仕事をすることで、**国（スリランカ）の復興に役立てればやってみようと思うとの意向を話してくれました。**

スリランカと日本

第二次世界大戦、日本の敗戦後、日本の4分割統治計画が進む中で1951年9月に行われたサンフランシスコ講和会議。その会議での、当時スリランカ代表として会議に参加していた元スリランカ大統領JRジャヤワルダナ氏（当時蔵相）のスピーチ。

“Hatred does not cease by hatred, but only by love.”

人はただ愛によってのみ憎しみを超えられる。

人は憎しみによっては憎しみは越えられない。

というブッダの言葉であるダンマパダ5 (法句経）を引用して、**スリランカは対日賠償請求の放棄を表明し、日本の国際社会への早期復帰を訴えました。**

この演説が連合国、並びに会議に出席している代表団の心を動かし、日本は分割統治を免れました。

スリランカは親日国です。現在のスリランカにとって日本はとても大切。私が日本人であり、日本とスリランカの双方を知っていることで、**両国の関係強化**に貢献できることは多々あると思います。
ですから、**スリランカ大使夫人としてのお仕事を頑張っていきたい**ですね。

他にも、**国際儀礼やマナーのインストラクターでもある**ので、日本の方々にも、エチケットやコミュニケーションの大切さを伝えていきたいし、オンラインサロンもやってみたい。

やりたいことはたくさんありますね。

“Happiness”という言葉

最後に、“Happiness”という言葉。

日本語では、“幸せ”ですよね。でも、**Happinessって、人によって違う**の。何をHappinessと捉えるか。**実は、私たちの心の中にある**ものだけれど。

これからも、**“今、この時”を大切に、私のできること、やりたいことを楽しみながらやっていきたい**ですね。

アジア女性リーダーズフォーラム

代表理事　佐々木亜衣

駐日スリランカ大使夫人

ペレラ雅子

2023年1月30日　インタビュー時のランチ会

インタビュアー：アジア女性リーダーズフォーラム（AWLF）

代表理事 佐々木亜衣・常任理事 橋本さやか

記事制作：野原沙織

編集：座間翔子